

# 東白杵南部地域の普及活動（普及活動月報）

令和7年2月 東白杵農林振興局  
(東白杵南部農業改良普及センター)

## 目次

- I 管内農業・農村の出来事や新たな動き (P 2～3)
- 1 【全域】令和6年度オール日向産地戦略会議を開催
  - 2 【全域】東白杵南部農業改良普及事業協議会及び宮崎県農業経営指導士会南部支部合同会議を開催
  - 3 【県域】県産花き展示会2025が開催
  - 4 【日向市・門川町・美郷町】MIYAZAKI-GAP説明会を実施
  - 5 【管外】野菜重点展示ほ現地検討会が開催
- II 主な普及指導活動等の取組
- 1 プロジェクト（総合、専門）に関する普及活動 (P 4～6)
- [総合：担い手確保・育成、雇用労力の確保、中山間地域づくり 等]  
[専門：茶(中山間)、肉用牛繁殖(若手)、冬春ミトト、ほうれんそう(椎葉)、へべす、スイートピー 等]
- 1 【門川町】農業経営者サポート事業の活用による専門家指導を実施
  - 2 【門川町】外国人材派遣に係る協議
  - 3 【美郷町】お試し就農体験研修を実施
  - 4 【全域】日向地域農業再生協議会労力サポート部会及び担い手対策部会を開催
  - 5 【日向市】経営開始資金の受給者等の就農状況を確認
  - 6 【全域】若手農家向け畜産基礎研修並びに農業経営指導士との意見交換会を開催
  - 7 【門川町・諸塚村・美郷町】スイートピー栽培管理指導を実施
  - 8 【日向市・門川町】へべす産地戦略ビジョン、7年度取組内容を協議
  - 9 【日向市】へべす水田転換園における排水対策の現地実演を実施
  - 10 【椎葉村】土壌分析に基づく施肥設計支援を実施
- 2 プロジェクト（総合、専門）以外の普及活動(一般活動) (P 7～8)
- 1 【全域】普通期水稻新品種候補系統先進地事例調査を実施
  - 2 【全域】NOSAI・普及センター共同研修会を開催
  - 3 【日向市・門川町】施設きゅうりの環境データに基づく栽培管理を指導
  - 4 【諸塚村・椎葉村】夏秋野菜の防除暦検討
  - 5 【全域】営農振興協議会野菜・花き技術員会で高千穂ファーマーズスクール視察を実施
  - 6 【美郷町】くり定植前講習を実施
  - 7 【日向市・美郷町・諸塚村】シキミ立枯症対策チェックシート案を提案
  - 8 【椎葉村】園芸部会役員会が開催



東白杵南部農業改良普及センター  
ホームページ

# I 管内農業・農村の出来事や新たな動き

## 1 【全域】令和6年度オール日向産地戦略会議を開催

3日、JA本店にて、関係者25名が出席し、令和6年度オール日向産地戦略会議を開催しました。この会議は、各生産部会が策定している産地戦略ビジョンの共通課題である「担い手の確保・育成」、「雇用労力の確保」、「受託組織の育成」について、オール日向で一丸となり、関係者で支援していくことを目的に、平成30年に設置したものです。

会では、普及センター所長から、共通課題の特徴的な取組について説明を行いました。出席者からは、鳥獣被害対策や生産、流通コストの見直し、農地の流動化等に取り組んでいかないと、将来の担い手確保は難しいのではないかと、との意見が出されました。今後、ビジョンの達成に向け、具体的な方策について検討を行っていきます。



【取組を説明する所長】

## 2 【全域】東臼杵南部農業改良普及事業協議会及び宮崎県農業経営指導士会南部支部合同会議を開催

6日、普及センターで管内の関係機関・団体で構成する普及事業協議会と農業経営指導士会との合同会議を開催し、23名が出席しました。会では、令和6年度普及活動実績と令和7年度普及活動計画について、総合プロジェクト課題1～3を中心に説明を行いました。また、普及活動及び農業振興に関する意見交換を実施し、質疑や様々なご意見、ご要望をいただきました。

本会でいただいた意見等については、今後の普及活動に反映させていただきます。

## 3 【県域】県産花き展示会2025が開催

1日～2日、宮崎市のイオンモール宮崎において、「みやざき花で彩る」県産花き展示会2025が開催され、管内からは24点が出品されました。4部門毎の来場者人気コンテストにおいては、管内のランタンキュラスとシキミ、ユリが上位3位以内に入賞する好成績でした。来場者は染められた花の色に興味を示したり、花の香りにつられて来場されたりと、県内で生産された美しい花をそれぞれで楽しまれていました。



【県産花き展示会場】

## 4 【日向市・門川町・美郷町】MIYAZAKI-GAP説明会を実施

20日、普及センターにて生産者8名（ミニトマト3名、へべす5名）、関係者8名が参加し、県農業流通ブランド課の職員及びひなたGAP事務局を招いて、ひなたGAP団体認証グループ生産者向けの説明会を実施しました。

今回はGAPに関する国の動き、新しい県GAP（MIYAZAKI-GAP）制度の概要、ひなたGAPの経過措置を中心に説明が行われました。参加した生産者から積極的に質問が出され、県GAPの消費者へのPR（販売面でのメリット）を求める意見も出されました。今後は各グループで新しい県GAPへの取組について話し合いを行う見込みです。



【県農業流通ブランド課による説明】

## 5 【管外】野菜重点展示ほ現地検討会が開催

18日、都城市の現地ほ場にて、関係機関31名が参加し、宮崎県営農振興協議会野菜部会野菜重点展示ほ現地検討会が開催されました。

今年度は、促成きゅうりの「ひなたエアポット」と「アースストレート苗」の初期生育の特性把握の課題が重点展示ほとなっており、関係者は現地で実際のきゅうりの生育を見ながら、慣行栽培苗との技術上の課題を検討しました。この2つの苗は、慣行の苗より、定植作業時間が短い等の特徴があります。

今回の展示ほ成績をもとに、当管内での普及について今後検討していきます。

## II 主な普及指導活動等の取組

### 1 プロジェクト（総合、専門）に関する普及活動

[総合：担い手確保・育成、雇用労力の確保、中山間地域づくり 等]

[専門：茶(中山間)、肉用牛繁殖(若手)、冬春ミト、ほうれんそう(椎葉)、へべす、スイトピー 等]

#### 1 【門川町】農業経営者サポート事業の活用による専門家指導を実施

17日、門川町の農業者（施設園芸）1戸と関係者5名が出席し、農業経営サポート事業を活用した就業規則等に関する支援相談会を実施しました。

会では、専門家（社会保険労務士）から就業規則について従業員のモチベーション向上の視点も含めた助言がありました。その他、従業員毎の有給休暇の管理方法や従業員の介護休暇等について、幅広く助言いただきました。助言を受けた農業者からは、「的確な助言をいただけて良かった。今回の助言を基に、従業員のモチベーションを上げながら自分の経営も発展できるように向き合いたい。」との感想が聞かれました。今後も、関係者と連携してフォローアップしていく予定です。

#### 2 【門川町】外国人材派遣に係る協議

25日、門川町役場において、農業者7名（施設園芸）と関係者6名（門川町役場2名、県3名、派遣会社1名）で、外国人材派遣の受け入れに係る協議を行いました。労働力の確保が困難になる中、特定技能外国人材の派遣を活用することで、農繁期に必要な人数を確実に確保する取組として、先月から門川町内の施設園芸農業者に対して要望調査等を実施してきました。

今回は、主に外国人材向けの住居の確保や農業者グループとしての受け入れ体制等について協議しました。今後とも農業者の経営発展のため、労働力の確保に向けた支援を実施していく予定です。



【外国人材受け入れについて協議する農業者】

#### 3 【美郷町】お試し就農体験研修を実施

7日、美郷町のきんかん生産者の元で、就農希望者1名に対し、お試し就農体験研修が実施されました。

研修では、きんかんの収穫作業を中心に指導いただきました。

今後、技術習得の為に長期研修を実施することとなっているので、就農に向け、継続的に支援していきます。



【きんかんお試し就農体験研修】

#### 4 【全域】日向地域農業再生協議会労力サポート部会及び担い手対策部会を開催

27日、関係者19名が出席し、労力サポート部会及び担い手対策部会の全体会議を行いました。

会議では、本年度の活動実績内容を共有すると共に、来年度の活動方針について検討を行いました。

労力サポート部会及び担い手対策部会は、今年度で解散しますが、今後も研修や先進事例の共有などを行い、関係者と共に労力確保対策や担い手確保対策を推進していきます。



【労力サポート部会全体会議】

## 5 【日向市】 経営開始資金の受給者等の就農状況を確認

28日、日向市において経営開始資金の受給者等のうち3名を関係者4名で訪問し、就農状況確認を行いました。この就農状況確認は、受給者（新規就農者）の確実な育成と定着を目的に行うものです。

受給者が提出した就農状況報告をもとに昨年度の栽培実績やほ場の状況等を確認しました。

今後も引き続き、受給者の技術・経営における課題の解決や計画に沿った経営が行えるよう、支援していきます。



【日向市就農状況確認】

## 6 【全域】 若手農家向け畜産基礎研修並びに農業経営指導士との意見交換会を開催

26日、管内の若手肉用牛繁殖農家を対象に畜産基礎研修会を開催し、農家6名、関係者4名が参加しました。

研修では、普及センターから「生産性向上のために必要なこと」をテーマに、牛の発情発見のポイントや子牛の管理について説明しました。

また、農業経営指導士との意見交換会では、子牛の疾病対策やICT機器の活用、経営管理等をテーマに、活発な意見が交わされました。若手農家からの子牛の疾病対策の方法に関する質問に対し、農業経営指導士からは床を冷やさないよう、敷料の取り換えの際の工夫の話が出るなど有意義な情報交換の場となりました。



【子牛管理に関する意見交換】

## 7 【門川町・諸塚村・美郷町】 スイートピー栽培管理指導を実施

5日、生産者4名、関係者2名が参加し、スイートピーの現地検討会が開催されました。

2月上旬は最強寒波がくる予報が出ていたこともあり、暖房機の稼働について確認を行うことや植物が凍ってしまった場合の対策を改めて指導しました。生産者間でも今作の温度管理やかん水状況について活発に意見交換が行われました。

3月末まで安定した出荷が続くよう関係者と協力して支援していきます。



【意見交換を行う生産者】

## 8 【日向市・門川町】 へべす産地戦略ビジョン、7年度取組内容を協議

13日、JA本店にて生産者12名、普及センターを含む関係者10名が参加し、JA平兵衛酢部会の産地戦略ビジョン班会議が開催されました。

はじめに事務局（JA）から令和6年度の産地ビジョンに関する部会等の活動概要について説明が行われました。その後は生産、販売、担い手の3班に分かれて、ロードマップの前回（昨年12月下旬）出された意見等を踏まえた令和7年度取組内容について協議し、活発に意見交換を行いました。今後は今年度内に産地ビジョンの取組内容を部会役員会に諮るため、ロードマップの取組内容を整理します。



【へべす産地ビジョン班会議】

## 9 【日向市】へべす水田転換園における排水対策の現地実演を実施

14日、日向市東郷町のほ場にて、生産者（ひむか農園）、関係者3名が参加し、スマート農業技術活用産地支援事業での機械の試験的導入3回目として、直進アシストトラクター＋「カットブレイカーmini」の実演を農機メーカーに協力いただき実施しました。

当初は複数箇所では心土破砕を行う予定でしたが、浅い土層に石礫が多く、トラクターの後輪の空転やカットブレイカーが深さ20cmより下に入らない状況がみられ、このほ場ではカットブレイカーの活用が難しいことが分かり、不要な設備投資を抑制できましたが、排水対策等の検討が必要だと思われま



【カットブレイカーの実演】

## 10 【椎葉村】 土壌分析に基づく施肥設計支援を実施

19日から27日、ほうれんそう生産者3戸、水稻生産者1戸のほ場延べ9カ所について、土壌分析に基づく施肥設計を行い、相談があった生産者に説明を行いました。

土壌分析は毎年取り組まれる方が多いのですが、今回、初めて実施された方に対しては、丁寧に説明を行うことで、ほ場の状況を理解し、分析結果を基に施肥設計を検討してもらうことができました。

各品目の実績検討会でも、土壌分析に基づく土づくりや施肥設計を推進しており、これからも実践する農家が増えてくれればと期待しています。



【施肥設計を提案】

## 2 プロジェクト（総合、専門）以外の普及活動（一般活動）

### 1 【全域】普通期水稲新品種候補系統先進地事例調査を実施

12日～13日、関係者9名が参加し、JAえびの市地区本部並びに総合農業試験場にて新品種候補系統「南海189号」の先進地事例調査を行いました。

「南海189号」は現在品種登録を目指した検討が行われていますが、管内においては試験事例がありません。

調査では系統の特徴や栽培上の留意点、試作の評価についての説明を受け意見交換を行いました。先進地では収量や品質が「ヒノヒカリ」よりも良好で、食味も高評価なことから早期の品種登録を要望しており、期待の高さが伺われました。

今回の調査で管内でも品種登録後速やかに普及できるよう関係者の知識向上を図ることができました。



【先進地視察研修】

### 2 【全域】NOSAI・普及センター共同研修会を開催

13日、普及センターにおいて管内の畜産農家を対象にNOSAIと普及センターの共同研修会を開催し、畜産農家4名、関係機関3名が参加しました。

研修では、普及センターから「収益アップにつながる粗飼料づくり」について、粗飼料の栽培管理のポイントを説明しました。

また、NOSAIから「繁殖管理の無駄を省いて生産性を向上させよう」と題して説明がありました。研修後の農家から質問、意見も活発に出され、関心が高い様子でした。



【NOSAI・普及センター  
共同研修会】

### 3 【日向市・門川町】施設きゅうりの環境データに基づく栽培管理を指導

20日、JA美々津支店において生産者7名関係者4名が参加し、促成きゅうりにおける春先の栽培管理についての講習と併せて2月の施設内環境データ分析による栽培管理の振り返りを行いました。

環境データの分析では、分析シートから湿度の1時間毎の変動を見て乾燥している時間を視覚的に把握し、栽培管理の改善に対する議論が行われました。生産者は被覆資材、マルチの有無、かん水量等の違いで湿度のデータが変わることを認識でき、栽培管理の改善のきっかけとなりました。

今後は、分析シートと生育調査の結果を参考にして、当月の栽培管理の振り返りを行い、翌月の栽培管理の方向性を決定し、各生産者が実践していきます。



【生産者同士の栽培管理の  
意見交換】

### 4 【諸塚村・椎葉村】夏秋野菜の防除暦検討

28日、JA西郷支店において、関係者4名が参加し、R7年産夏秋ミニトマトとほうれんそうの防除暦検討会が開催されました。

検討会では、夏秋ミニトマトとほうれんそうについて、令和6年産の農薬使用実績や病害虫発生状況の振り返りを行いながら、次作に向けての防除暦を作成しました。

2品目ともに4月に生産者へ配布と説明を行い、病害虫防除の適性化を図ります。

## 5 【全域】 営農振興協議会野菜・花き技術員会で高千穂ファーマーズスクール視察を実施

26日、営農振興協議会野菜部会技術員会9名、花き部会技術員会4名延べ計13名で、高千穂ファーマーズスクールへ視察研修を実施しました。

日向地区では各品目で産地戦略ビジョンを策定しており、「担い手確保・育成」に品目共通で取り組むこととしております。そこで、今回は中山間地域で先進的な取組をされ、移住と就農の一体的な担い手確保支援をされている高千穂ファーマーズスクールへ視察を行いました。

視察では、設立に至るまでの関係機関の連携やカリキュラムの構築等における課題を聞くとともに、実際に研修生と就農コーチから話を聞くことができました。

参加者からは、「地域外の担い手確保の取組を学べて参考になった」と感想があり、今後の担い手確保・育成の取組の参考になりました。



【関係機関との意見交換】

## 6 【美郷町】 くり定植前講習を実施

28日、美郷町西郷のくり園にて、生産者11名、関係者3名が参加し、くり定植前講習会が実施されました。美郷町ではくりの新植が増えていますが、植付場所の選択や植付方法の手違いが原因とみられる苗木の枯死も多いことから、定植前の講習会を実施することになりました。

普及センターから苗木の植穴の準備等の基本的な説明を行い、その後に苗木を植え付ける実演を行いました。参加した生産者から積極的に質問が出され、また美郷町栗部会長からも経験に基づくアドバイスがあり、参加者は苗木植付の基礎について理解されたようでした。



【くり定植前講習会】

## 7 【日向市・美郷町・諸塚村】 シキミ立枯症対策チェックシート案を提案

14日、生産者10名、関係者4名が参加し、JA美郷町シキミ部会合同役員会が開催されました。

春彼岸出荷に向けた計画数量の協議が行われ、普及センターからは立枯症チェックシート案と令和7年版栽培暦について提案を行いました。

今後、内容についていただいた意見を反映し、技術員会で協議して総会等で生産者へ提供します。



【チェックシート案の提案】

## 8 【椎葉村】 園芸部会役員会が開催

25日、JA椎葉支店において、椎葉村園芸部会役員会が開催されました。役員3名、関係者5名が出席し本年度の実績や定例総会、次年度活動計画等に関して協議が行われました。

本年度の実績に関しては、記録的な高温や曇雨天の影響が大きく、園芸品目全体で、現時点で前年比98%の販売高とやや厳しい状態です。しかし主要品目の夏秋ミニトマトは収穫終盤までの管理技術向上により前年比120%と好調な実績となりました。定例総会は5月20日に開催予定となり、各種表彰や情勢報告等が予定されています。

駐在からは、ほうれんそう産地ビジョン検討会で出された意見を説明し、専門部会の活動計画への反映を提案しました。また、今季で引退される農業経営指導士の方へ、長年のご活躍への謝意を表するとともに、新たに就任を予定されている方の紹介を行いました。